

全日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会(1968~1977)の研究(2) — 第1・2・3回大会の概要と競技記録 —

A Historical Study of the Noto Peninsula Ekiden for Selected Japanese Universities during 1968-1977 :
Part 2 — Documentation and Records of 1st to 3rd Race Competitions —

大久保 英 哲, 親 谷 均 二, 北 川 潔
Hideaki OKUBO, Kinji OYATANI, Kiyoshi KITAGAWA

〈要旨〉

第1回開催(1968)から第10回大会(1977)まで行われた「全日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会」(「能登駅伝」)は、かつて日本大学三大駅伝と言われた大会であった。

大久保英哲・親谷均二は、「日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会の開催・廃止過程—第1回開催(1968)から第10回大会(1977)に至るまで—」(金沢星稜大学人間科学研究第9巻1号)の中で、本大会の開始と廃止過程に焦点をあて、「能登駅伝」が昭和43(1968)年能登半島が国定公園に指定された記念事業として、七尾市及び読売新聞社によって発案されたこと。読売新聞社は交通事情や都市環境の悪化により、自らが主宰してきた「青東駅伝」、「箱根駅伝」が将来的に実施困難となる可能性を見据え、それに代替する駅伝大会として育てる意図があったとみられること。しかしながら、昭和48(1973)年10月のオイルショック以後、大会は資金的に行き詰り、廃止されるに至ったことなど、主に社会的背景を明らかにしてきた。しかし競技会に係るスポーツ史研究である以上、各大会におけるチーム・選手一人一人の奮闘とそれらの記録を踏まえた大会総括が必要であることは言うまでもない。

そこで本稿では、まず第1・2・3回大会のレース概要とチーム、選手、区間ごとの競技記録をまとめ、報告する。

〈キーワード〉

能登駅伝, 駅伝競走, 実施記録

はじめに

本論文では、大久保英哲・親谷均二「日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会の開催・廃止過程—第1回開催(1968)から第10回大会(1977)に至るまで—」(金沢星稜大学人間科学研究第9巻1号)に続く研究である。前回の研究で課題として残した、第1~10回大会毎の詳細な実施記録、選手名、順位、タイム等のうち、第1~3回分について明らかにするものである。

主な資料は第1~3回大会プログラム、この2~5回大会に4度北信越チーム代表選手として能登路を走り、さらには第9回大会に北信越チームの監督として伴走車に乗り込んだ経歴を有する筆者の一人親谷均二の所持する大会記録のほか、大会の主催ないし後援企業であった読売新聞社北陸版に報じられた新聞記事である。

1. 第1回大会(昭和43年)

昭和43(1968)年11月14~17日、「全日本学生招待 能登半島一周駅伝競走大会」が開催された。参加チームは各地

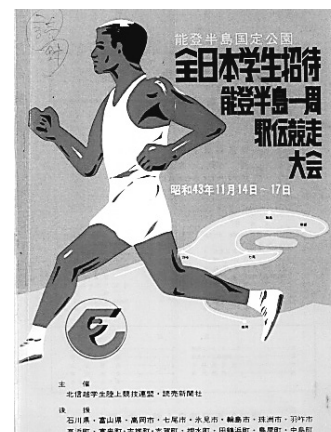


図1. 第1回大会プログラム

区学生陸上競技連盟から10チームが招待されたが、参加したのは北海道、九州地区を除く9チームであった。

コースは、第1日目に高岡市読売新聞社北陸支社前をスタートし、北國銀行能都支店前まで。第2日目は北國銀行能都支店前から輪島市役所前まで。そして第3日目は輪島市役所前から七尾市役所前でゴールという計24区、全長345.9kmのコースであった。

レースの様子は連日、読売新聞に次の様に報じられている。

第1日目（高岡－能都、122.4km）

「郷土代表、北信越選抜チームは全員よく健闘、力走したが、全日本のレベルは高く、初日は8位にとどまった。初日の第一走者、中村文夫選手（信州大）は、青色のたすきを左肩からかけ、元気よくスタートした。7位で第二走者・小笠原和弘選手（信州大）にリレー。小笠原選手は後半疲れ、最下位の青山学院・服部選手に追いつかれ、肩を並べて第三走者、折橋勉選手（金経大）へ。折橋選手は前

半青山学院と競り合いながら東北選抜に肉薄した。しかし、後半になって青山学院に振り切られ、東北選抜にも約5km競り合った末、離され8位に。しかし第四走者、ベテラン吉田祇生選手（新潟大）は次第に遅れ始めた茨城大・青木選手を抜き、7位に上がり、東北選抜との差も縮めながら第五中継点へ。だが、トップとの時間差が20分開くと、次走者が中継点からタッチなしに再スタートする規定があるため、第五走者・松本稔選手（金大）は十数秒差で再スタート組になり、茨城大、中・四国選抜とともに第五中継点から再スタートした。松本選手は今春、痛めた胸部の傷が痛み出して再スタート組の最下位で第六走者、堀田宗明選手（大谷技短大）にタッチ。堀田選手は先月の富山県・魚津一字奈月間駅伝で5人抜きをした自信で飛ばし、東北選抜を抜いて第七走者、水谷俊雄選手（福井大）へ。水谷選手は前半飛ばしすぎ、後半第八中継地にあとわずかというところで東北選抜に抜かれた。しかし、よく最後まで頑張り、倒れながら最終走者、加藤孝一選手（福井大）にタッチ。よく力走したが8位にとどまった。」⁽¹⁾

表1. 第1回大会第1日目競技記録

チーム名(監督)			日本体育大学 (岡野 章)	東洋大学 (佐々木秀幸)	中京大学 (中尾隆行)	大阪商業大学 (藤田隆三)	青山学院大学 (加藤慎蔵)	東北学連 (天野文彦)	北信越学連 (佐藤国治)	茨城大学 (野田洋平)	中国・四国学連 (菅沼 昇)
区間											
1	高岡 ～氷見	18.5km	伊藤 保 ②55.23	伊沢 徹男 ③55.24	佐藤 直行 ①55.18	牧 尚武 ④55.25	小田島義男 ⑧1.00.06	広田 和夫 ⑤56.06	中村 文夫 ⑦1.00.01	井坂 公俊 ⑥58.09	吉野 俊彦 ⑨1.02.26
2	～黒崎	19.7km	田中 弘一 ①59.45	樋口 良太 ②1.00.17	永田 幸一 ④1.02.48	山田地太郎 ⑤1.03.29	服部 和則 ③1.01.22	下河原常雄 ⑨1.11.49	小笠原和弘 ⑦1.07.25	大内 喜雄 ⑥1.06.07	山下 直史 ⑧1.09.12
3	～七尾	15.9km	牧野 昭典 ①49.24	野村 栄樹 ③50.13	野口 保礼 ②50.04	吉田 建夫 ④50.24	太田 徹 ⑤51.02	加茂 敬二 ⑥52.03	折橋 勉 ⑦54.05	石塚 義夫 ⑧56.04	中山 亘久 ⑨56.25
4	～中島	18.4km	松岡 厚 ①58.20	森 修 ②58.59	仲村 則夫 ③1.00.30	藤井 昇 ⑧1.04.19	日下 次郎 ⑥1.03.44	阿部 勝彦 ⑤1.02.11	吉田 祇生 ④1.01.47	青木 崇郎 ⑦1.03.48	宮宗 真治 ⑨1.07.10
5	～穴水	16.5km	小暮 守雄 ②50.58	山本 哲 ④52.06	近藤 勝巳 ①50.25	南 貞夫 ④52.06	尾花 実行 ③51.24	荒木 徹郎 ⑨57.09	松本 稔 ⑧56.54	照山 恵一 ⑦54.24	長沢 稔 ⑥53.20
6	～上曾山	11.9km	大窪勝太郎 ①36.28	金山 順一 ②37.17	浜田 三男 ③37.32	土井 和美 ④37.35	平野 憲司 ⑦40.18	浪岡 泰博 ⑨42.32	堀田 宗明 ⑧40.19	椎名 輝男 ⑤40.06	小早川銀宗 ⑥40.14
7	～鶴川	12.0km	三原 市郎 ①34.18	新井 敏之 ④36.39	渡辺 賢吉 ③36.34	田中 敏正 ②35.01	古屋 篤男 ⑤37.44	林 礼明 ⑥39.19	水谷 俊雄 ⑧41.40	菊地 好男 ⑨41.52	川沢 謙介 ⑦40.11
8	～能都	9.5km	増田 亮一 ①27.27	山本 賢一 ③29.07	水落 真一 ③29.07	西山 幸宏 ⑤29.36	岩崎 憲三 ②28.58	相沢 健 ⑥30.07	加藤 孝一 ⑨31.37	自見 友一 ⑧31.24	川副 義文 ⑦31.21
第一日			①6.12.03	②6.20.02	③6.22.24	④6.27.55	⑤6.34.38	⑥6.51.16	⑧6.53.48	⑦6.51.54	⑨7.00.19

第2日目（能都－輪島、103.1km）

「2日目は、冷たい雨、風がたたきつける悪天候であった。北信越選抜は斉藤喜八郎主将（福井大）を20.4kmという今駅伝最長の区間に起用し、5位で松本選手にタッチした。松本選手はスタート直後に、激しく追いつけてきた大阪商大にいったん抜かれたものの、4kmすぎの珠洲市・木島バス停あたりで青山学院を抜き、上戸農協付近（9.4km）で大阪商大をとらえ4位に上がる大活躍。3番手の寺沢文雄選手（信州大）は本降りになってきた雨にペースがくずれたかスピードに乗り切れず6位に落ちた。続く新人、平塚光明選手（金沢大）・矢作富雄選手（信州大）はよく健闘したが、トップとの時間差が15分以上ひらいた

ため6番手の森泉哲選手（信州大）は東北選抜、中・四国選抜、茨城大とともに繰り上げスタートした。森泉選手は中・四国選抜、茨城大を大きく振り切り、最終ランナー木村テツ夫選手（新潟大）へ。木村選手も力走したが、順位は変わらなかった。佐藤監督は「なんとしても入賞したい。そのために最終日の今日はベテランばかりを配置した。必ず郷土ファンの期待に応えます」とファイトを燃やしている。」⁽²⁾

表2. 第1回大会第2日目競技記録

チーム名(監督)			日本体育大学 (岡野 章)	東洋大学 (佐々木秀幸)	中京大学 (中尾隆行)	大阪商業大学 (藤田隆三)	青山学院大学 (加藤慎蔵)	東北学連 (天野文彦)	北信越学連 (佐藤国治)	茨城大学 (野田洋平)	中国・四国学連 (菅沼 昇)
9	能都 ～松波	20.4km	小沢 欽一 ③1.03.52	田中 末喜 ①1.02.38	加藤 了 ②1.03.41	中西与志雄 ⑥1.07.20	小平 務 ④1.06.18	菅原千賀雄 ⑦1.09.59	斉藤喜八郎 ⑤1.07.01	椎名 輝男 ⑨1.11.10	山本 久夫 ⑧1.11.01
10	～珠洲	10.9km	山口 敏史 ①31.10	神宮 直仁 ②32.30	西井 孝司 ④33.30	花野 章 ⑤34.43	本間 彰 ③37.14	阿部 勝彦 ③33.24	松本 稔 ⑥34.46	近藤 寿一 ⑨38.00	北条 善雄 ⑦35.05
11	～粟津	14.4km	高野 智行 ①43.59	新井 敏之 ③45.50	村瀬 義治 ④46.07	吉田 建夫 ②44.32	平野 憲司 ⑤47.03	小林 宏夫 ⑧49.31	寺沢 文雄 ⑨50.59	大内 喜雄 ⑥48.45	水田 昭彦 ⑦49.02
12	～狼煙	7.1km	金 伸二郎 ④22.54	武富 博文 ②22.12	藤井知佐男 ①22.08	村山 清次 ⑦24.01	尾崎 勝司 ⑧25.14	青山 登 ⑥23.54	平塚 光明 ⑤23.33	渡部 敬男 ⑨25.48	堀部 紀明 ③22.51
13	～大谷	17.4km	茂呂 敏 ④57.36	佐々木 功 ①54.46	笠井 三郎 ③57.08	宮田 典明 ⑧1.01.19	尾花 実行 ②57.04	佐藤 寿芝 ⑥59.30	矢作 富男 ⑦59.54	井坂 公俊 ⑤57.37	萩原 浩一 ⑨1.04.47
14	～南志見	18.1km	富岡 敏彦 ③58.31	富永 輝幸 ②58.17	大薮 謙一 ①57.09	平田 書男 ④59.47	徳江 秀隆 ⑤1.00.23	加茂 敬二 ⑤1.00.23	森泉 哲 ⑦1.03.57	大藤 貞夫 ⑧1.05.46	萩原 忠男 ⑨1.08.09
15	～輪島	14.8km	野呂 進 ①48.31	竹之内 孝 ②48.42	山口 良一 ④50.09	西山 幸宏 ⑤51.20	岩崎 憲三 ③48.49	小林 裕満 ⑧53.31	木村テツ夫 ⑨54.12	萩谷 博美 ⑦53.29	野沢 勝 ⑥52.51
第二日		103.1km	②5.26.33	①5.24.55	③5.29.52	⑤5.43.02	④5.42.05	⑥5.50.12	⑦5.54.22	⑧6.00.35	⑨6.03.46
通 算		225.5km	①11.38.36	②11.44.57	③11.52.16	④12.10.57	⑤12.16.43	⑥12.41.28	⑦12.48.10	⑧12.52.29	⑨13.04.05

第3日目（輪島一七尾，120.4km）

「最終日、北信越選抜チームは全区間にベテランを配置し、入賞を狙った。しかし、1・2番手が向かい風に負けてブレーキとなり、19、21、24区で繰り上げ出発。後半の追い込みもむなしく、惜しくも通算7位で入賞を逃した。だが、選手たちは、日本の一流ランナーと初めて戦い、非常に有意義だったと大喜び。来年の健闘を誓って、それぞれ帰路についた。佐藤国治監督は「入賞を逃したことは残念だが、さすがに日体大、東洋大、中京大などは日本一流の名の通りだ。精一杯やったのだから悔いはない。学ぶこと

も多かった。来年は金大で単独チームを作り、まずは東北選抜チームを抜いて入賞したいと語った。」⁽³⁾

以上のように、第1回大会は、昭和43（1968）年11月14日～17日、高岡一七尾、24区間345.9kmを争い、1位 日本体育大学 17時間45分07秒、2位 東洋大学 17時間57分02秒、3位 中京大学 18時間08分08秒、4位 大阪商業大学 18時間38分47秒、5位 青山学院大学 18時間40分47秒、6位 東北学連選抜 19時間22分32秒、7位 北信越学連選抜 19時間31分24秒、8位 茨城大学 19時間43分35秒、9位 中・四国学連選抜 19時間58分18秒という結果であった。

表3. 第1回大会第3日目競技記録

チーム名(監督)			日本体育大学 (岡野 章)	東洋大学 (佐々木秀幸)	中京大学 (中尾隆行)	大阪商業大学 (藤田隆三)	青山学院大学 (加藤慎蔵)	東北学連 (天野文彦)	北信越学連 (佐藤国治)	茨城大学 (野田洋平)	中国・四国学連 (菅沼 昇)
16	輪島 ～上縄又	8.4 km	田中 弘一 ①25.50	森 修 ②26.14	渡辺 賢吉 ③26.15	山田地太郎 ④26.42	田村 雅明 ⑨28.21	相沢 健 ⑥27.42	堀田 宗明 ⑦28.01	椎名 輝男 ⑤27.35	北条 善雄 ⑧28.14
17	～門前	13.5 km	牧野 昭典 ③41.41	山本 哲 ②41.27	加藤 了 ①41.22	南 貞夫 ⑦44.24	小平 務 ④42.05	菅原千賀雄 ⑤44.12	折橋 勉 ⑨46.17	井坂 公俊 ⑥44.21	長沢 稔 ⑧44.39
18	～剣地	11.9 km	小暮 守雄 ①33.46	伊沢 徹男 ②36.36	浜田 三男 ③36.46	土井 和美 ⑤37.47	古屋 篤男 ④37.40	小林 宏夫 ⑧40.23	高野 了一 ⑨41.36	石塚 義夫 ⑥39.34	吉田 俊彦 ⑦39.53
19	～富来	20.7 km	増田 亮一 ①1.03.33	樋口 良太 ④1.05.12	佐藤 直行 ②1.04.30	田中 敏正 ⑤1.06.35	服部 和則 ③1.04.39	広田 和夫 ⑥1.07.57	中村 文夫 ⑧1.10.02	青木 崇郎 ⑦1.09.44	川沢 謙介 ⑨1.15.24
20	～直海	15.5 km	伊藤 保 ①49.09	野村 栄樹 ②49.15	近藤 勝一 ⑤50.34	藤井 昇 ④50.26	小田島義男 ③49.51	阿部 勝彦 ⑥50.40	小笠原和弘 ⑦52.56	大内 喜雄 ⑨55.28	萩原 浩一 ⑧55.11
21	～志賀	8.0 km	大窪勝太郎 ①22.25	富永 輝幸 ②23.00	水落 真一 ③23.49	広瀬 一郎 ⑧26.43	井上 洋三 ⑥25.46	国安 治 ⑦26.15	加藤 孝一 ④25.42	兵藤 高夫 ⑨27.48	川副 義文 ⑤25.43
22	～羽咋	14.8 km	山口 敏夫 ①45.31	田中 末喜 ②45.47	仲村 則夫 ③47.23	平田 書男 ⑤48.56	徳江 秀隆 ⑥49.50	青山 登 ⑦51.47	吉田 祇生 ④48.48	小祝 一男 ⑨53.22	宮宗 真治 ⑧52.38
23	～高畠	11.5 km	松岡 厚 ①34.45	清野 孝一 ③35.24	永田 幸一 ②35.06	池 峠 ⑤36.57	岩崎 憲三 ④35.43	加茂 敬二 ⑥37.16	平塚 光明 ⑦37.50	多治見知弘 ⑨39.57	小早川銀宗 ⑧39.08
24	～七尾	16.0 km	三原 市郎 ①47.51	佐々木 功 ②49.10	野口 保礼 ④50.07	牧 尚武 ③49.20	太田 徹 ⑤50.09	栗山 洋 ⑨54.52	斉藤喜八郎 ⑥51.02	照山 恵一 ⑧53.17	山下 直久 ⑦53.23
第三日		120.4km	①6.06.31	②6.12.03	③6.15.52	⑤6.27.50	④6.24.04	⑥6.41.04	⑦6.43.14	⑧6.51.06	⑨6.54.13
通 算		345.9km	①17.45.07	②17.57.02	③18.08.08	④18.38.47	⑤18.40.47	⑥19.22.32	⑦19.31.24	⑧19.43.35	⑨19.58.18

2. 第2回大会（昭和44年）

第2回大会は、昭和44年11月21日～11月23日で第1回大会と同様3日間の開催であった。大会プログラムによれば、主催は北信越学生陸上競技連盟、読売新聞社、能登半島国定公園区域市町村である。また、後援は日本学生陸上競技連合、石川県、富山県、能登半島観光協会である。大会の主管は石川陸上競技協会・富山陸上競技協会である。参加チームは北海道選抜、東北選抜、北信越選抜、茨城大学、青山学院大学、東洋大学、日本体育大学、中京大学、大阪体育大学、中・四国選抜の10チームであり、第1回大会の出場チームに新たに北海道選抜と大阪体育大学が加わった。



図2. 第2回大会プログラム

第1日目（高岡～能都，8区間，122.4km）

大会の様子は読売新聞に昭和44年11月21日夕刊に次のように報じられている。

「高岡市街地を一同となってスタートした選手たちは、景勝地の雨晴海岸にかかるころには小沢（日体大）が飛び

出し、続く広田（東北）、太田（青山学院大）、富永（東洋大）のグループに100mの差をつけた。氷見市島尾海岸では、あいにくの雨に見舞われたが、各選手とも背中に泥を跳ね上げながら、健脚を競った。先頭グループの小沢、太田、広田はともにこのほど行われた青森～東京駅伝の選手。これに対し、初出場の北海道の白石や唯一の国立大単独チームの茨城大・椎名、北信越学連・平塚が先頭集団から引き離され、第1中継点の氷見市へ入った。

2区、昨年に継ぐ連勝を目指す日体大は、昨年このコースを走った田中が起伏に富んだ海岸線をマイペースで独走し、2位以下とますます差を広げた。他の選手も懸命に追走。右に富山湾を見ながら走り抜けた各選手は、沿道で読売旗を打ち振る小学生や地元の人たちの歓迎を受けて石川県入り。七尾市中継点には日体大がトップで通過したのに引き続き、激しい2位争いをしている東洋大、中京大、青山学院大がなだれ込んだ。しかし、残りの6チームは、4位の青山学院大から10分以上の差がついたので、大会規定により、黒たすきで繰り上げスタート。5位以下は東北学連、北海道学連、大阪体育大、中・四国学連、茨城大、北信越学連の順。」「国定公園能登半島の入り口、高岡市雨晴は右に日本海がひらけ、小島の松の緑がひときわ鮮やか。選手らは気分をよくしてスパート。旅館・商店の前では、「雨晴海岸のPRのチャンス」と従業員や主婦が小旗を振って応援。

氷見市の入り口、窪小では、一流選手の走りっぷりを見ようと校舎前の国道160号線両側に1、2、5、6年生約200人が並んだ・・・（後略）。第1中継点となった氷見市では選手が走る国道沿いの商店街約3kmにわたって紅白の幕を張って歓迎。まん幕で歓迎してくれるところは全国でも珍しいと選手たちは感激。」⁽⁴⁾

表4. 第2回大会第1日目競技記録

区間	チーム名（監督）	日本体育大学 （岡野 章）	東洋大学 （佐々木秀幸）	中京大学 （中尾隆行）	青山学院大学 （加藤慎蔵）	大阪体育大学 （村社講平）	東北学連 （殿内信一）	中国・四国学連 （菅沼 昇）	北海道学連 （土橋茂一）	茨城大学 （野田洋平）	北信越学連 （中西 隆）
1 高岡 ～氷見	18.5km	小沢 欽一 ①54.30	富永 輝幸 ③55.08	岡田 耕三 ⑥56.36	太田 徹 ②55.07	吉村 忠郎 ⑤56.28	広田 和夫 ④56.01	小早川銀宗 ⑦57.27	白石 哲雄 ⑧57.36	椎名 輝男 ⑩59.07	平塚 光明 ⑨58.04
2 ～花園	18.1km	田中 弘一 ②57.37	田中 未喜 ④58.50	永田 幸一 ①56.53	小平 務 ③58.47	奥村 悦二 ⑨1.03.54	加茂 敬二 ⑧1.02.17	長沢 稔 ⑦1.02.16	畑 功 ⑤1.01.09	萩谷 博美 ⑥1.01.44	佐藤 譲治 ⑩1.07.17
3 ～七尾	17.5km	伊藤 保 ②53.29	森 修 ①53.15	稲垣 裕 ③55.48	尾花 実行 ⑤57.35	秋山 伸男 ⑦57.38	石村 幸作 ⑥57.36	中川 寿郎 ⑩1.00.03	川股 正幸 ④57.15	大藤 貞夫 ⑧59.20	小林 秀治 ⑨59.55
4 ～中島	18.4km	山口 敏夫 ③57.07	樋口 良太 ②56.10	笠井 三郎 ④57.24	服部 和則 ①55.58	久米川健次 ⑤57.49	阿部 勝彦 ⑦1.00.19	万波 迪義 ⑥1.00.01	興津 雅樹 ⑧1.01.49	照山 恵一 ⑨1.02.15	親谷 均二 ⑩1.05.42
5 ～穴水	16.5km	田鎖 正人 ④53.32	山本 哲 ①50.39	近藤 勝巳 ②51.17	徳江 秀隆 ③53.22	塚本 敏雄 ⑤54.24	相沢 健 ⑧55.29	文野 清 ⑨56.51	竹内 敏幸 ⑦54.55	芳賀文十郎 ⑩59.17	斉藤喜八郎 ⑥54.46
6 ～上曽山	11.9km	石倉 義隆 ①38.02	金山 順一 ②38.25	山村 勇 ③39.13	河内喜一郎 ⑧40.53	橋本 元栄 ④39.09	柳沢 一向 ⑦40.07	岩田 孝利 ⑤40.01	菊地 良治 ⑩42.15	菊地 好男 ⑨41.45	吉田 祇生 ⑥40.03
7 ～鶴川	12.0km	久宗 恒夫 ①34.45	神宮 直仁 ②35.29	澄田 正人 ③36.19	田村 雅明 ⑦38.01	西野 秀樹 ⑥37.57	浪岡 恭博 ⑧38.50	川沢 謙介 ⑩39.36	清野 寛 ④37.22	青木 崇郎 ⑤37.42	木村 哲夫 ⑨38.59
8 ～能都	9.5km	小林 幸雄 ②29.00	高橋 吉実 ③29.18	西井 孝司 ①28.47	柳田 進 ⑤30.33	山本 透 ④30.24	林 紘明 ⑥31.36	佐々木哲朗 ⑧31.44	足立 哲郎 ⑨32.32	松村 喜博 ⑩32.16	沢井 一好 ⑦31.43
第一日	122.4km	②6.18.02	①6.17.14	③6.22.17	④6.30.16	⑤6.37.43	⑥6.42.15	⑧6.47.59	⑦6.44.23	⑨6.53.26	⑩6.56.29

第2日目（能都－輪島，7区間，103.1km）

「2日目を迎えた第2回全日本大学選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会は、22日午前9時、石川県鳳至郡能都町北國銀行前を参加10チームの第1走者が一斉にスタート、この日のゴール地点輪島市役所めざし、力走した。この日のコースは7区間、103.1km。曇り空から時折薄日が漏れるまづまづのコンディション。第1日をリードした東洋大、奮起に燃える日体大と盛り上がりを見せ、前日振るわなかったチームも“今日こそは”と九十九湾、緑剛崎、曾々木海岸をめぐる奥能登景勝コースに白熱のレースを繰り広げた。

9区、能都町北國銀行前をスタートした集団は、まず3km地点で茨城大・青木が遅れたものの、残りの9人は一団となって接戦。10kmで中・四国選抜・北條、北海道学連・興津も離れていった。1、2日目を通しての最長区間で、結局前日の4区で区間最高をマークした青山学院大・服部をトップに40m離れて大阪体育大・大塩と中京大・岸根が並び、このあと東洋大、東北学連、日体大の6番目までが300mたらずの差で、10区に引き継いだ。10区に入っても先頭集団が崩れず、白波の立つ海岸線の力走が続いた。中盤から東

北学連・広田が快調に飛び出し、先行の4人をごぼう抜き、東北学連としては大会初のトップで珠洲市役所前中継点へ飛び込んだ。しかし、東洋大、中京大もわずかの差で続き、日体大、大阪体育大も急追、激しいレース展開のまま、能登半島先端、狼煙に向かった。なお、北信越学連は9区でエース斎藤が7位と頑張ったが、10区で10位に落ちた。

珠洲市役所前では、東北学連が1時間39分37秒でトップ通過、東洋大、中京大、日体大が2分以内の差、そのあと大阪体育大、青山学院大、中・四国学連、北信越学連の順。」「スタート地点には、30分前から約100mにわたって人垣が出来た。朝食の後始末を終えた主婦や商店の事務員らに混じって出漁前の漁師も応援。「今日は暖かい感じだが“あいにくの風”（北よりの風）が吹いているから日中は寒くなるぞ。選手もきついだろうなあ」と、気象の変化に敏感な海の男らしい感想をもらしていた。第2日目は先頭集団が6チームあるという接戦になった。北信越学連も9区では7位と先頭集団に続く位置にいたが10区で10位に落ちてしまった。やはり、北信越学連は選手層の厚みをどう増していくかが課題であろう。」⁽⁵⁾

表5. 第2回大会第2日目競技記録

区間チーム名 (監督)			日本体育大学 (岡野 章)	東洋大学 (佐々木秀幸)	中京大学 (中尾隆行)	青山学院大学 (加藤慎蔵)	大阪体育大学 (村社講平)	東北学連 (殿内信一)	中国・四国学連 (菅沼 昇)	北海道学連 (土橋茂一)	茨城大学 (野田洋平)	北信越学連 (中西 隆)
9	能都 ～松波	20.4km	小沼 力 ⑥1.07.01	伊沢 徹男 ④1.06.17	岸根 修 ③1.06.08	服部 和則 ①1.05.59	大塩 正則 ②1.06.06	蒲 正平 ⑤1.06.44	北條 善雄 ⑩1.11.44	興津 雅樹 ⑨1.11.18	青木 崇郎 ⑧1.10.05	斎藤喜八郎 ⑦1.09.06
10	～珠洲	10.9km	町野 英二 ③33.43	金山 順一 ②33.34	山下 健次 ④33.45	青木 律 ⑧37.56	豊田 和則 ⑥35.23	広田 和夫 ①32.53	山本 久夫 ⑤34.03	篠原 秀男 ⑦37.23	多治見知弘 ⑨39.10	加藤 聖 ⑩41.38
11	～栗津	14.4km	小菅 正男 ②46.01	山本 哲 ①44.47	畠中 正喜 ⑤47.49	田村 雅明 ⑦49.57	吉村 忠郎 ④47.13	栗山 洋 ⑧49.58	村上 信広 ⑩51.40	松田 義雄 ⑨51.22	椎名 輝男 ③47.09	小林 秀治 ⑥49.27
12	～狼煙	7.1km	茂呂 敏 ①22.15	武富 博文 ②22.45	村瀬 義治 ③22.53	河内喜一郎 ⑤23.28	浦田 祐貴 ⑥23.34	加藤 慎一 ⑧24.33	堀部 紀昭 ④22.56	新沼 由徳 ⑦24.29	近藤 高功 ⑩26.04	親谷 均二 ⑨24.59
13	～大谷	17.4km	大窪勝太郎 ①54.03	富永 輝幸 ②55.32	田畑 喜和 ④58.01	森 猛 ⑦59.16	橋本 元栄 ⑥58.44	阿部 勝彦 ⑤58.12	萩原 浩一 ⑨1.00.55	白石 哲雄 ③56.37	大内 喜雄 ⑧1.00.40	沢井 一好 ⑩1.06.20
14	～南志見	18.1km	松岡 厚 ①52.52	樋口 良太 ②54.00	藤田 泰弘 ③56.19	推名 通 ⑦58.43	塚本 敏雄 ④56.42	鳴沢 光政 ⑧59.31	小早川銀宗 ⑤57.21	竹内 敏幸 ⑥58.22	大藤 貞夫 ⑨1.00.58	水上 康雄 ⑩1.03.29
15	～輪島	14.8km	川島 克実 ②44.30	長浜 公良 ①44.29	一ノ瀬吉男 ③48.41	井上 洋三 ⑩55.32	上田 俊明 ⑦51.18	浪岡 恭博 ⑥50.31	村上 裕二 ④49.39	吉田 叔高 ⑨54.21	小祝 一男 ⑧53.46	折橋 勉 ⑤49.51
第二日		103.1km	②5.20.25	①5.20.24	③5.33.36	⑦5.50.51	④5.39.00	⑤5.42.28	⑥5.48.18	⑧5.53.52	⑨5.57.52	⑩6.04.50
通 算		225.5km	②11.38.27	①11.37.38	③11.55.53	⑤12.21.07	④12.16.43	⑥12.24.43	⑦12.36.17	⑧12.38.15	⑨12.51.18	⑩13.01.19

第3日目

表6. 第2回大会第3日目競技記録

区間	チーム名 (監督)	日本体育大学 (岡野 章)	東洋大学 (佐々木秀幸)	中京大学 (中尾隆行)	青山学院大学 (加藤慎蔵)	大阪体育大学 (村社講平)	東北学連 (殿内信一)	中国・四国学連 (菅沼 昇)	北海道学連 (土橋茂一)	茨城大学 (野田洋平)	北信越学連 (中西 隆)
16	輪島 ～上縄又	8.4 km 伊藤 保 ①25.41	飯沢 明 ⑧27.31	西井 孝司 ②25.47	森 猛 ④26.54	吉村 忠郎 ③26.17	相沢 健 ⑥27.03	北條 善雄 ⑨28.29	清野 覚 ⑦27.12	石塚 義夫 ⑩29.06	吉田 祇生 ⑤26.56
17	～門前	13.5 km 久宗 恒夫 ①40.39	長浜 公良 ⑨45.39	稲垣 裕 ②41.33	尾花 実行 ③41.49	森 貢 ⑤44.02	蒲 正平 ④42.28	萩原 浩一 ⑩46.11	興津 雅樹 ⑦45.00	照山 恵一 ⑥44.43	水上 康雄 ⑧45.10
18	～剣地	11.9 km 大窪勝太郎 ②35.22	樋口 良太 ①34.55	山村 勇 ③36.44	本多 直人 ⑨40.57	米光 信二 ⑥39.04	国安 治 ⑤33.16	長沢 稔 ④37.26	久保田 実 ⑧40.10	芳賀文十郎 ⑦39.22	奥 孝次 ⑩41.52
19	～富来	20.7 km 小沢 欽一 ①1.02.35	田中 未喜 ③1.03.35	永田 幸一 ②1.03.23	小平 務 ④1.05.23	奥村 悦二 ⑦1.07.55	加茂 敬二 ⑥1.07.15	岩田 孝利 ⑨1.10.01	畑 功 ⑤1.06.56	萩谷 博美 ⑧1.08.06	平塚 光明 ⑩1.10.25
20	～直海	15.5 km 松岡 厚 ④49.58	森 修 ②48.31	近藤 勝巳 ①48.05	徳江 秀隆 ⑤50.17	久米川健次 ③49.20	石村 幸作 ⑨53.32	堀部 紀昭 ⑧52.11	白石 哲雄 ⑤51.08	椎名 輝男 ⑦51.40	折橋 勉 ⑩54.25
21	～志賀	7.2 km 茂呂 敏 ②21.50	小谷 祥雅 ⑤23.07	岸根 修 ①21.44	斉藤 邦明 ⑩27.16	福田 明真 ⑥23.34	阿部 勝彦 ③22.08	文野 清 ④23.06	吉田小次郎 ⑦24.26	兵藤 高夫 ⑨25.57	深山 憲二 ⑧25.32
22	～羽咋	16.4 km 石倉 義隆 ①45.20	伊沢 徹男 ④46.58	澄田 正人 ②45.28	柳田 進 ⑥48.56	秋山 伸男 ⑧50.06	鳴沢 光政 ⑤48.34	川沢 謙介 ⑩51.36	川股 正幸 ④47.53	菊地 好男 ⑨51.15	木村 哲夫 ⑦49.49
23	～高畠	11.5 km 山口 敏夫 ①34.14	蓼沼 昇 ⑤37.37	笠井 三郎 ③35.14	服部 和則 ②34.36	山本 透 ⑥38.13	林 紇明 ⑦38.15	山本 久夫 ④36.24	足立 哲郎 ⑧39.20	川口 小兵 ⑩42.38	佐賀 努 ⑨39.37
24	～七尾	16.0 km 田中 弘一 ②48.07	神宮 直仁 ④49.51	岡田 耕三 ①48.05	太田 徹 ③48.43	大塩 正則 ⑦51.40	広田 和夫 ⑤50.02	万波 迪義 ⑥50.34	竹内 敏幸 ⑧51.52	大内 喜雄 ⑩55.33	佐藤 譲治 ⑨55.30
第三日	121.2km	①6.03.46	③6.17.44	②6.06.03	④6.24.51	⑥6.30.11	⑤6.27.33	⑧6.35.38	⑦6.33.57	⑨6.48.20	⑩6.49.16
通 算	346.7km	①17.42.13	②17.55.22	③18.01.56	④18.45.58	⑤18.46.54	⑥18.52.16	⑦19.11.55	⑧19.12.12	⑨19.39.38	⑩19.50.35

以上のように、第2回大会は、昭和44年（1969年）11月21日～23日、高岡～七尾、24区間346.7kmを10チームが争った。

1位 日本体育大学 17時間42分13秒、2位 東洋大学 17時間55分22秒、3位 中京大学 18時間01分56秒、4位 青山学院大学 18時間45分58秒、5位 大阪体育大学 18時間46分54秒、6位 東北学連選抜 18時間52分16秒、7位 中・四国学連選抜 19時間11分55秒、8位 北海道学連選抜 19時間12分12秒、9位 茨城大学 19時間39分38秒、10位 北信越学連選抜 19時間50分35秒という結果であった。

3. 第3回大会

第3回大会は昭和45年11月21日～11月23日の3日間開催された。大会プログラムによれば、主催は北信越学生陸上競技連盟、読売新聞社、後援は日本学生陸上競技連合、石川県、富山県、関係市町村。大会主管は石川陸上競技協会・富山陸上競技協会である。参加チームは北海道選抜、東北選抜、北信越選抜、日本体育大学、駒澤大学、茨城大学、中京大学、大阪体育大学、大阪商業大学、中・四国選抜の10チームであり、前回参加の東洋大学、青山学院大学は不参加で、新たに駒澤大学、大阪商業大学が参加した。

第1・2回大会は能登半島観光協会が主体となり開催してきたが、第3回プログラムには観光協会の名はない。運営、その他一切を学連があたり、競技は石川陸協、富山陸協が主管している。

またこの大会からゴールが金沢に変更となった。

大会を翌日に控えた昭和45年11月20日、読売新聞北陸支

社で開会式が行われた。「20日午後2時から読売新聞北陸支社で、参加10チームの監督、選手、両県の市町村、競技

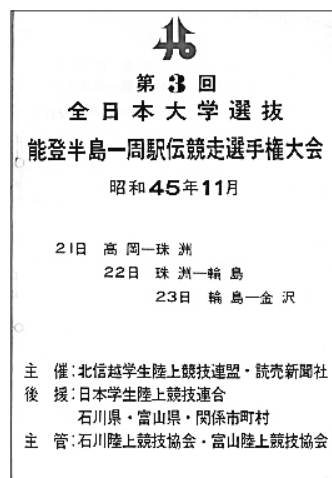


図3. 第3回大会プログラム



図4. 第3回大会コース図
(読売新聞PR版、昭和47年11月号（発行日付なし）)

関係者ら100人が出席して開会式が行われたが、今年ですでに3回目。東京一箱根駅伝に続く大会として注目され始めただけに参加選手は闘志をみなぎらせていた。北信越学生連盟旗、読売杯などが飾られた開会式では、志村北信越学生陸上競技連盟幹事長が開会宣言、鯉田読売新聞北陸支社長が各チームの労をねぎらったあと、“能登駅伝も回を重ね、各方面の注目を集めている。駅伝は、交通渋滞のひどい大都市周辺から締め出される傾向にある。それに比べ能登駅伝は、景色よし、空気よしと環境は満点。しかも、今回から北陸の古都・金沢市がゴールになり、地元民の期待も一段と高まっている”と挨拶した。また、関係市町村を代表して堀高岡市長も、心から歓迎する。堂々の勝利、悔いなき敗退をモットーに頑張ってほしいと激励。赤、黄、青・・・と各チームを表すたすきが主将に手渡され、北海道学連の主将、白石哲雄選手（北海道大学）が選手宣誓をした。引き続き行われた監督会議では、コースの状況説明、競技場の注意などがあったが、今大会は最終日のコースが大幅に変更、遠来のチームにとって初の走路が多いため、熱心な質疑応答が交わされた。各チームの色分けは、北海道学連＝だいたい、東北学連＝黄色、北信越学連＝ライト・ブルー、日体大＝青色、駒澤大＝白色、茨城大＝桃色、中京大＝紫色、大阪体育大＝茶色、大阪商業大＝緑色、中・四国学連＝赤」⁽⁶⁾と報じられている。

第1日目（高岡～珠洲10区間，141.4km）

読売新聞11月21日夕刊には第1日目の模様が次のように報じられている。

「第1日目は読売新聞北陸支社前を出発し、珠洲市役所

前まで10区間、141.4kmに熱戦を繰り広げた。天気は良好。景勝の能登・内浦を各選手は元気いっぱい力走、3連勝をめざす日体大が、第2区（氷見―黒崎間）で中京大に遅れをとったものの、他の区間で終始独走。追いつがる中京大、初出場ながら箱根駅伝の常連駒澤大などを大きく離してこの日のゴールに入った。地元北信越学連も健闘したが、9位にとどまった。日体大は選手層の厚さをまざまざと見せつけた。トップ高橋は、1年生ながらレースの雰囲気になじめることなく快走、スタート2km地点まで先頭に立ち、2位の中京大・近藤に1分20秒差をつけ区間最高で田中にタッチした。足を痛めているベテラン田中は中京大の市に追い抜かれ、2分37秒差をつけられ2位に落ちたが、今春の箱根駅伝で活躍した第3区の小沼が、10000m29分41秒のスピードにものをいわせて、あっさり逆転。続く町野、岩淵、伊藤、小沢、田之上はいずれも区間最高記録をマーク、他チームを寄せ付けなかった。中京大は新鋭・市の健闘で一時はトップに立ち、5区・山村が区間最高の力走を見せたが、3区を走った岸根のブレーキが最後までひびいた。やや低調気味のレースを盛り上げたのは新顔の駒澤大と2年ぶりの大阪商業大、3年連続出場の大阪体育大の3位争い。日体大、中京大にこそ引き離されたものの、追いつ追われつの接戦を演じ、観衆を沸かせた。特に4区を走った大阪商業大の主将・八木は力強いストライドで、約1kmを先行する駒澤大・宮川を追い上げ、区間2位の記録で抜き去ったのが光った。北信越学連を始め、北海道学連、東北学連、中・四国学連、大阪体育大、茨城大も力走したが及ばなかった。」⁽⁷⁾

表7. 第3回大会第1日目競技記録

区間	チーム名（監督）	日本体育大学 （岡野 章）	中京大学 （中尾隆行）	駒澤大学 （森本 葵）	大阪商業大 （杉下隆三）	大阪体育大学 （村社謙平）	東北学連 （石川満雄）	中国・四国学連 （菅沼 昇）	北海道学連 （土橋茂一）	北信越学連 （森本治郎）	茨城大学 （大山 東）
1	高岡 ～氷見	17.9km 高橋 勝好 ①56.02	近藤 勝巳 ②57.22	田中 秀男 ⑤59.17	天野 精三 ③57.24	大塩 正則 ⑥59.30	蒲 正平 ⑨1.01.24	万波 迪義 ⑩1.03.59	白石 哲雄 ④59.04	平塚 光明 ⑧1.00.15	椎名 輝男 ⑦59.54
2	～黒崎	18.9km 田中 弘一 ③1.06.21	市 武徳 ①1.02.24	佐藤 利宏 ②1.04.44	中西与志雄 ⑤1.06.58	久米川健次 ④1.06.38	加茂 敬二 ⑥1.07.14	村上 信広 ⑨1.10.40	菊池 良治 ⑦1.09.55	大塚 偉介 ⑧1.10.08	萩谷 博美 ⑩1.10.20
3	～七尾	15.6km 小沼 力 ①49.56	岸根 修 ⑤52.52	小野 泰功 ②51.22	奥田 豊一 ③52.21	上田 俊明 ④52.45	高橋 研哉 ⑥54.41	中川 寿朗 ⑨56.20	久保田 実 ⑦54.46	齊藤喜八郎 ⑧55.43	岩波 英一 ⑩57.19
4	～中島	18.0km 町野 英二 ①56.15	澄田 正人 ③58.37	宮川 寿夫 ⑤59.15	八木 在灌 ②57.46	塚本 敏雄 ④58.45	石村 幸作 ⑦1.01.25	山本 久夫 ⑥59.54	大畑 孝裕 ⑩1.08.03	白崎 繁 ⑧1.03.30	都筑 積 ⑨1.05.16
5	～穴水	16.0km 小菅 正男 ②54.07	岡田 耕三 ①52.03	高橋 賢一 ③54.31	平田 書男 ④54.53	奥村 悦二 ⑤55.19	三浦 光雄 ⑦57.41	文野 清 ⑨59.27	篠原 秀男 ⑥56.58	井口 昌一 ⑧58.10	川口 小兵 ⑩1.06.24
6	～上曽山	11.6km 岩淵 仁 ①38.00	橋本 一政 ②39.19	大沢 隆司 ③39.45	赤松 由章 ④40.17	魚住 広信 ⑥42.09	渡会 省吾 ⑤40.28	北條 善雄 ⑦42.20	足立 哲朗 ⑨43.26	大総 正篤 ⑧42.55	天下井治男 ⑩43.19
7	～鶴川	11.4km 伊藤 保 ①34.38	の場 幸夫 ②35.36	佐藤 次男 ⑤37.56	吉岡伝太郎 ⑦38.40	西野 秀樹 ③37.22	黒田喜久夫 ⑦38.40	川副 義文 ④37.27	松井 俊治 ⑥38.04	沢井 一好 ⑩42.21	松村 喜博 ⑨39.03
8	～能都	9.2km 小沢 欽一 ①27.47	松尾 望 ④29.55	田中 喜一 ②29.31	福田 雅広 ③29.46	山本 泰人 ⑥31.17	太田 敏 ⑤31.16	門田 博文 ⑨33.39	木村 正信 ⑦32.01	寺沢 文雄 ⑧32.37	宮崎 一郎 ⑨33.39
9	～松波	12.2km 久宗 恒夫 ②38.59	山村 勇 ①38.47	宮崎 慶喜 ④40.21	吉岡 了司 ③39.32	米光 信二 ⑥42.05	佐藤 寿芝 ⑤41.21	岩城 雄二 ⑧45.01	村田 義雄 ⑦43.30	吉沢 浩志 ⑨45.49	久田 守雄 ⑩46.52
10	～珠洲	10.6km 田之上貢一 ①32.39	山下 健次 ③33.31	佐々木弥市 ⑤34.09	田中 敏正 ②33.29	兼島 英樹 ④33.53	栗山 洋 ⑥35.22	栗田 栄二 ⑦35.55	山田 森男 ⑧36.46	水上 康雄 ⑨37.47	竹内 博務 ⑩38.09
第一日	141.4km	①7.32.44	②7.40.26	③7.50.51	④7.51.06	⑤8.00.03	⑥8.09.32	⑧8.24.42	⑦8.23.09	⑨8.29.15	⑩8.41.15

第2日目（珠洲－輪島，5区間70.2km）

第2日目の大会の様子について、読売新聞11月23日朝刊は次のように報じている。

「初日、日体大に7分42秒の差をつけられた中京大は、前日区間記録をマークする好走を見せた市をトップに起用した作戦が成功した。4.5km地点で日体大の茂呂と市は、他チームを大きくリード、トップに立った。3年連続出場のベテラン茂呂は、小刻みにスパートをかけ、ペースを乱そうとするが、市はびったり茂呂に食いついて離れない。7.5kmの珠洲市上雲津バス停付近で逆に猛然とスパート、歯を食いしばって走る茂呂をみるみるうちに引き離し、約500mの差をつけて次の走者へ。日体大は12区で大金が区間最高記録の好走を見せ、狼煙バス停前中継点付近であと30mまで中京大を追い詰めたが、1年生でレース経験の浅い13区の今野は、ぬかるみで、上り下りが続くコースをこなしきれず、区間最高を記録した中京大・笠井に逃げられてしまった。しかし、続く14区で“エース”石倉がすばらしい健脚ぶりを披露、トップに躍り出た。石倉がタッチを受けたとき、中京大・稲垣は約400m先、断崖沿いに道路が曲がりくねり、相手が見えないという、追う身にとって不利なコースだったが、今春の箱根駅伝で区間記録を作った大きいストライドでぐんぐん追い上げ、11km地点の輪島市・曾々木トンネル出口で稲垣をあっさり抜き去った。中京大も負けていない。この日のアンカー岡田は20kmを1時間そこそこで走る実力を持っているだけに、小幅な走法ながら安定したピッチで追走、11km付近で日体大主将・山口と並んだ。抜かれまいとする山口、一気に引き離そう

と意気込む岡田。駆け引きを交え約2kmにわたりデットヒートが続いた。岡野日体大、中尾中京大両監督は、伴走車から乗り出し、声を振り絞る。市街地の家並みが連なるゴール手前1kmあたりから岡田がじりじりリード、道路の両側を埋めた市民の大声援を浴びながら21秒の差をつけゴールに飛び込んだ。トップ争いとは別に、3位争いにも興味が持たれている。2日間の通算成績では、3位の駒澤大と大阪体育大の差はわずか4秒。距離にすれば30m程度になる。

北信越学連チームはエース級の選手を繰り出し、よく力走したが、この日も9位にとどまった。初日に続いてトップ走者に起用されたベテラン平塚（金沢大）は、スタート後約6km地点までトップグループにいたが、右足中指に肉刺をつくり、すっかりペースを落とし、第12区の粟津バス停中継点で8位で大総（信州大）にリレー。第13区の親谷（金沢大）は、地元鳳至郡柳田村出身で、砂利道16.8kmの難コースに挑んだが、珠洲市大谷農協バス停で宮本（大阪商業大）に抜かれ、9位に落ちた。大谷で繰り上げスタートした佐藤（金沢大）は、輪島市南志見の下り坂で両足が痙攣して大阪商業大に大差をつけられた。この日の最終走者渡辺（長野経済短大）は、力強いストライドで中・四国学連、大阪商業大、北海道学連の3選手をごぼう抜き、区間4位の好記録で中継点の輪島市役所に入り、通算時間を大きく短縮した。第14区で差をつけられて渋い顔だった監督らも「これで“巻き返し”の足がかりができた」と、最終日に希望をつないでいた。」⁽⁸⁾

表8. 第3回大会第2日目競技記録

チーム名 (監督)			日本体育大学 (岡野 章)	中京大学 (中尾隆行)	駒澤大学 (森本 葵)	大阪商業大 (杉下隆三)	大阪体育大学 (村社講平)	東北学連 (石川満雄)	中国・四国学連 (菅沼 昇)	北海道学連 (土橋茂一)	北信越学連 (森本治郎)	茨城大学 (大山 東)
区間												
11	珠洲 ～栗津	14.4km	茂呂 敏 ②45.57	市 武徳 ①44.13	戸村又治郎 ⑦47.10	細川 寛 ⑨49.26	吉村 忠郎 ④46.30	渡会 省吾 ③46.27	国重 忠男 ⑥46.47	白石 哲雄 ⑤46.46	平塚 光明 ⑧47.28	都筑 積 ⑩51.59
12	～狼煙	7.0km	大金 一幸 ①21.20	山口 良一 ④22.42	田中 喜一 ②21.53	藤井 昇 ⑦23.55	山本 泰人 ⑤23.08	蒲 正平 ③22.03	佐々木哲郎 ⑥23.27	岸田 幸也 ⑨24.58	大総 正篤 ⑧24.52	近藤 高功 ⑩25.59
13	～大谷	16.8km	今野 秀悦 ②55.08	笠井 三郎 ①54.01	井上 忠雄 ⑤58.54	宮本 厚 ⑥59.06	橋本 元栄 ③56.33	石村 幸作 ④57.46	谷 富士夫 ⑩1.02.44	吉田 叔高 ⑧1.02.11	親谷 均二 ⑨1.02.43	菊池 好夫 ⑦1.02.03
14	～南志見	17.4km	石倉 義隆 ①52.40	稲垣 裕 ②55.05	加藤 滋 ⑤57.48	前田 和久 ⑩1.01.18	塚本 敏雄 ③55.13	加茂 敬二 ⑧59.31	小早川銀宗 ⑥58.18	久保田 実 ⑦59.28	佐藤 譲治 ⑨1.00.29	椎名 輝男 ④56.37
15	～輪島	14.6km	山口 敏夫 ②46.25	岡田 耕三 ①44.48	緒形 光平 ⑧51.51	上田 友之 ⑤50.21	久米川健次 ③47.04	鳴沢 光政 ⑥50.31	三ツ谷 寛 ⑨53.44	新沼 由徳 ⑦51.30	渡辺 清志 ④49.58	塩田 正俊 ⑩57.39
第二日		70.2km	②3.41.10	①3.40.49	⑤3.59.36	⑥4.04.06	③3.48.28	④3.56.18	⑧4.05.00	⑦4.04.53	⑨4.05.30	⑩4.14.17
通算		211.6km	①11.13.54	②11.21.15	③11.48.27	⑤11.55.12	④11.48.31	⑥12.05.50	⑧12.29.42	⑦12.28.02	⑨12.34.45	⑩12.55.32

第3日目（輪島－金沢，11区間，130.4km）

第3日目の大会の様子について読売新聞11月24日朝刊は次のように報じている。

「大会最終日とあって、スタートから緊張したムード。北西の風4～5m、最低気温6.1℃とあいにくのコンディションながら、午前4時には早くもランニング姿で市内を軽

く走り、体調を整える選手もあって、各チームとも「最後にかける」の強い意気込み。

出発5分前、宮口大会総務（石川陸協常務理事）が各チームの点呼を取ると“必勝”を期した第一走者の表情が引き締まる。スタートの号砲とともに「頑張れよ」の声援を受けた選手たちは一路金沢市のゴールを目指した。



図5. 区間3位でゴールイン（金大・平塚選手）
（読売新聞，石川読売（12版），昭和45年11月24日）

初日で7分42秒の差をつけながら，2日目に中京大に21秒縮められた日体大は，温存していた小沼，高橋，田中など，10000m29分台のトップ・ランナーを次々に起用。食い下がる中京大，駒澤大などを寄せ付けなかった。この作戦が図に当たり，第一走者久宗が8.2km（16区）の短い区間にも関わらず，2位以下に約500mの差をつけて早くもリード，続く小沼，高橋もそれぞれ区間最高をマーク，中京大を約2kmも引き離し，レース前半で3連勝を決めてしまった。後半の興味は，これまでの2位との通算の“時間差”13分9秒を更新できるかにかかった。前日までの時間差は7分21秒。あと5分49秒で更新できる計算となったが，スタートから走者がじりじり差を広げ，20区で小菅が中京大・畠中に2分4秒の差をつけ，あっさり“新記録”を作った。その後も岩渕，田中，山口，石倉が次々区間最高で快走，結局15分53秒の大差となった。

2日目ゴール間近で日体大を追い抜き，氣勢があがる中京大は，起伏の激しい16区に，3000m障害物に9分そこそこの記録を持つ山下を起用，スタートから飛び出す作戦。山下はよく力走したが，的場がブレーキとなり，駒澤大・田中に抜かれて3位に転落，19区の長丁場で3日連走ながら3たび区間最高を出した新人の市の健闘もむなしく2位で終わった。2日目まで4秒差で3位を争っていた駒澤大と大阪体育大も，それぞれ苦心のオーダーを組み，お互いにマークしながら力走したが，田中，大沢，佐藤ら10000mに30分台の実力を持つ選手をぶつけた駒澤大の作

戦が的中，3位となった。

北信越学連チームは，この日後半戦で激しい追い込みを見せたが，前半戦の不振がたたなり8位，3日間の通算成績では9位に終わった。この日の第一走者（16区）寺沢（信州大）は，スタートから力強いストライドでピッチを上げ，上位集団に混じってよく走ったが，輪島市街地のはずれ，8km地点から遅れ，上縄又中継点では最下位で親谷（金沢大）にリレー。2日目のレースで大きなブレーキとなった親谷は，汚名挽回を期してスパート，4km地点の上り坂で茨城大の久田を抜く好走。全コースを通じての最長区間19区（20.3km）で大塚（信州大）が痙攣を起こして最下位に転落した。22区で白崎（福井大）が巻き返して9位に上がったが，続く23区の佐藤（金沢大）が再びブレーキとなり，後半の斉藤（福井大），平塚（金沢大）の活躍も及ばず，上位には食い込めなかった。』^{〔9〕}

この最終23区を走ったアンカー平塚（金沢大）は区間3位の力走を見せた。

「アンカー平塚（金大）は区間三位 最終区間の金沢市森本支所前から石川県庁まで七・七キロは交通の激しい国道八号線。交通渋滞を考えて監督車など，いっさいの伴走車は森本支所でストップ。パトカーの先導で，選手たちは車の間をぬって走り続けたが，伴走車なしではペースがわからず，走りにくそう。しかし，そこは各チームのベテランをそろえたアンカーばかり。小旗を打ち振るって迎える観衆の声援にこたえて力走，ゴールインした。

今年から金沢ゴールなので地元代表チームの名誉にかけていい成績を残さねばと決意して最終区間を走った北信越学連の平塚光明選手（金沢大三年）は，日体大，中京大に続いて区間三位でゴールイン，後輩の親谷均二選手（同二年）にすがりついて男泣き。平塚選手はチームのエースと期待され，三日連続で起用されたが，初日は風に悩まされ，二日目は左足にマメをつくり，思うような成績があげられなかった。それだけに最終日は全精力をあげたという。監督やチームメイトの協力にやっとこたえることができたとさすがにうれしそう。』^{〔10〕}

坂井敏夫審判長は第3回大会を振り返って，「心配された金沢市内の交通整理もスムーズにいき，大成功だった。選手たちの間にも石川県都へのゴール院は好評。全コースにわたりトラブルや事故がなかったのは何よりだった。…初日を除き天候はよくなかったが，吹きつける風雨，アラレの中で選手を待ち，一人一人に声援を送って選手と一体となって，駅伝ムードに浸る地元民の姿も印象的」^{〔11〕}であったと，この駅伝大会が成功裏に終わり，地域に定着しつつある様子を語っている。

表9. 第3回大会第3日目競技記録

チーム名 (監督)			日本体育大学 (岡野 章)	中京大学 (中尾隆行)	駒澤大学 (森本 葵)	大阪商業大 (杉下隆三)	大阪体育大学 (村社講平)	東北学連 (石川満雄)	中国・四国学連 (菅沼 昇)	北海道学連 (土橋茂一)	北信越学連 (森本治郎)	茨城大学 (大山 東)
区間												
16	輪島 ～上縄又	8.2km	久宗 恒夫 ①25.25	山下 健次 ②25.43	高橋 賢一 ④25.55	福田 雅広 ③25.49	兼島 英樹 ⑤26.10	高橋 研哉 ⑥26.43	谷 富士夫 ⑨28.32	松井 俊治 ⑦27.53	寺沢 文雄 ⑩28.55	松村 喜博 ⑧27.57
17	～門前	13.0km	小沼 力 ①39.02	の場 幸夫 ③41.56	田中 秀男 ②40.23	平田 書男 ④43.04	橋本 元栄 ⑤43.22	鳴沢 光政 ⑧45.08	佐々木哲郎 ⑥44.37	村田 義雄 ⑦45.00	親谷 均二 ⑨45.48	久田守雄 ⑩50.21
18	～剣地	11.6km	高橋 勝好 ①34.24	山村 勇 ③36.01	大沢 隆司 ④36.24	田中 敏正 ②35.58	米光 信二 ⑥37.50	佐藤 寿芝 ⑦38.01	国重 忠男 ⑤37.38	木村 正信 ⑨39.41	渡辺 清志 ⑧39.31	竹内 博務 ⑩41.41
19	～富来	20.3km	田之上貢一 ②1.03.34	市 武徳 ①1.03.01	佐藤 利宏 ④1.05.35	天野 精三 ③1.04.08	奥村 悦二 ⑦1.07.42	蒲 正平 ⑧1.09.20	山本 久夫 ⑤1.06.10	白石 哲雄 ⑨1.12.50	大塚 偉介 ⑩1.13.55	萩谷 博美 ⑥1.07.26
20	～直海	11.2km	小菅 正男 ①34.25	畠中 正喜 ⑤36.29	佐々木弥市 ④36.08	吉岡 了司 ②36.01	西野 秀樹 ⑥37.19	佐野 三郎 ⑩40.34	栗田 栄二 ⑧38.23	山田 森男 ⑨39.00	井口 昌一 ⑦37.57	椎名 輝男 ③36.04
21	～志賀	8.6km	岩淵 仁 ①26.00	岸根 修 ②26.38	佐藤 次男 ③27.21	赤松 由章 ④27.24	池田 賢二 ⑨29.55	加藤 慎一 ⑥28.43	北條 善雄 ⑤28.10	田中 俊宣 ⑦29.04	藤山 徹 ⑧29.52	兵藤 高夫 ⑩31.49
22	～羽咋	14.1km	伊藤 保 ②43.33	澄田 正人 ①43.00	宮川 寿夫 ⑤44.59	中西与志雄 ③43.56	上田 俊明 ④44.23	渡会 省吾 ⑥45.30	川副 義文 ⑦46.58	篠原 秀男 ⑨47.39	白崎 繁 ⑧47.26	天下井治男 ⑩48.40
23	～高松	15.6km	町野 英二 ②47.54	近藤 勝巳 ①47.53	小野 泰功 ④49.25	八木 在灌 ③48.29	大塩 正則 ⑤51.20	三浦 光雄 ⑦52.56	村上 信広 ⑧53.08	菊池 良治 ⑨53.26	佐藤 譲治 ⑩54.46	岩波 英一 ⑥52.50
24	～津幡	12.8km	田中 弘一 ①1.38.19	岡田 耕三 ②39.03	宮崎 慶喜 ④40.22	奥田 豊一 ⑤40.28	吉村 忠郎 ⑥41.53	佐野 正 ⑨44.40	万波 迪義 ③40.16	吉田 叔高 ⑩46.54	斉藤喜八郎 ⑦42.35	菊池 好夫 ⑧43.49
25	～森本	7.3km	山口 敏夫 ①22.03	船越 厚司 ③22.54	田中 喜一 ②22.32	吉岡伝太郎 ④23.54	福田 明真 ⑤24.22	国安 治 ⑨25.29	三ツ谷 寛 ⑥24.26	久保田 実 ⑦24.26	折橋 勉 ⑧24.52	酒井 純 ⑩26.23
26	～金沢	7.7km	石倉 義隆 ①22.10	笠井 三郎 ②22.43	河内 伸一 ⑧24.43	宮本 厚 ④24.09	川合 照道 ⑦24.17	太田 敏 ⑥24.13	小早川銀宗 ⑤24.12	後藤 和正 ⑩25.50	平塚 光明 ③23.47	都筑 積 ⑨25.35
第三日		130.4km	①6.36.49	②6.45.21	④6.53.47	③6.53.20	⑤7.08.33	⑦7.21.17	⑥7.12.30	⑨7.31.43	⑧7.29.24	⑩7.32.35
通 算		342.0km	①17.50.43	②18.06.36	③18.42.14	④18.48.32	⑤18.55.04	⑥19.27.07	⑦19.42.12	⑧19.59.45	⑨20.04.09	⑩20.28.07

以上のように、第3回大会は、昭和45年(1970年)11月21日～23日、高岡—金沢26区間342.0kmを10チームが争った。

1位 日本体育大学 17時間50分43秒、2位 中京大学 18時間06分36秒、3位 駒澤大学 18時間42分14秒、4位 大阪商業大学 18時間48分32秒、5位 大阪体育大学 18時間55分04秒、6位 東北学連選抜 19時間27分07秒、7位 中・四国学連選抜 19時間42分12秒、8位 北海道学連選抜 19時間59分45秒、9位 北信越学連選抜 20時間04分09秒、10位 茨城大学 20時間28分07秒、の結果であった。

まとめ

幻の全日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会(1968～1977)のうち、第1～3回分の競技概況と競技記録をまとめた。各チーム・選手名と区間、タイムをまとめた表1～9は一見無味乾燥な記録に見えるかもしれないが、その一つ一つが、選手・役員、観衆一人一人の紛れもない人生の一コマであった。第1～10回分の詳細なデータ、さらには関係者への聞き取り調査や、コース沿いの人々に刻まれた記憶を遺産として引き起こしながら、全日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会(1968～1977)の全体像を明らかにし、その歴史的意義について述べていきたい。

注及び引用参考文献

- (1) 読売新聞、昭和43年11月16日朝刊
- (2) 読売新聞、昭和43年11月17日朝刊
- (3) 読売新聞、昭和43年11月18日朝刊
- (4) 読売新聞、昭和44年11月21日夕刊
- (5) 読売新聞、昭和44年11月22日夕刊
- (6) 読売新聞、昭和45年11月21日朝刊
- (7) 読売新聞、昭和45年11月21日夕刊
- (8) 読売新聞、昭和45年11月23日朝刊
- (9) 読売新聞、昭和45年11月24日朝刊
- (10) 読売新聞、石川読売(12版)、昭和45年11月24日朝刊
- (11) 読売新聞、昭和45年11月24日朝刊

付記

本論文は、大久保英哲が全体の構成や表現を含めた論文作成を統括している。その際、大久保が指導した鈴木仁子(2009)「全日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会について—第1回開催(1968)から中止(第10回大会・1977)に至るまでの経緯—」、平成21年度金沢大学教育学部卒業論文を基本資料として参考にしている。また表1～表9は、親谷均二と北川潔が、これまでの所蔵資料の中から当時の記録をもとに作成したものである。ただ、この原記録は一部選手氏名が不正確であったり、一部記録の合計値が合わないなど、不整合があることも事実である。可能な限り修正を試みたが、なお関係者諸氏のご指摘、ご叱正をお願いしたい。